東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 27 号 (2022), pp.51-61.
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* No.27 (2022), pp.51-61.

〈論文〉

アラビア語エジプト方言の疑問詞位置
Word order of Wh-questions in Egyptian Arabic

長渡 陽一
Youichi Nagato

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Tokyo University of Foreign Studies

要旨：アラビア語エジプト方言の疑問詞位置は、元位置型（Wh-in-situ）と言われているが、文頭に疑問詞がある例もみられる。これら疑問詞の文頭移動はこれまで、強調された場合にありうるものとされてきたが、e: da?「何+これ」のようなコピュラ文では文頭位置が多いので、強調とは考えにくい。

本稿では、映画のシナリオに現れた疑問文を 4 つの構文（動詞文、コピュラ文、分裂文、存在文）に分類し、構文ごとの疑問詞位置の類型を観察した。その結果、エジプト方言は基本的には元位置型であることを再確認し、(a)文頭に疑問詞があるのは疑問詞主語 mi:n と、文頭移動されたコピュラ文補語であること、(b)これ以外の疑問詞を文頭に置くには分裂文にする必要があること、ほかに(c)疑問詞の後方移動があることを明らかにした。

Abstract: Although the question word position in Egyptian Arabic is said to be Wh-in-situ, there are examples of question words at the beginning of sentences. These question word shifts to the beginning of the sentence have been considered to be possible in cases of emphasize, but in copula sentences such as *e: da?* “what + this”, the position is often at the beginning of the sentence, so it is difficult to consider it as emphasize. In this paper, we categorized the interrogative sentences that appeared in the movie scenario into four constructions (verbal, copula, cleft, and existential sentences) and observed the typology of interrogative positions for each construction. The results reaffirmed that Egyptian dialects are basically Wh-in-situ, and revealed that (a) question words are placed at the beginning of sentences only in the question word subject *mi:n* “who” and the copula complement moved to the beginning of the sentence, (b) in order to place other question words at the beginning of sentences, it is necessary to make a cleft sentence, and (c) there is a backward movement of interrogative words.

キーワード：アラビア語エジプト方言、疑問詞、元位置、後方移動、分裂文
Keywords: Egyptian Arabic, question word, Wh-in-situ, backward movement, cleft sentence

1. はじめに

アラビア語エジプト方言の疑問詞位置は、基本的には元位置型（Wh-in-situ）であると認識されている（文法書の Mitchell 1962、Ernest et. al 1979 など）。基本的な語順は、動詞文は［主語 + 動詞 + 目的語 + 副詞］（SVOX）、コピュラ文は［主語 + 補語］（SC）であり、それぞれの要素が疑問詞になっても、文頭に移動せず、その元位置に留まるというものである。しかし、コピュラ文の e:（何）が文頭移動したり（e: da?［何だ・それは］）、また逆に疑問詞主語が後方移動するもの（ḥaṣal e:?［起こった・何が］）もある。すると、エジプト方言の疑問詞位置は、元位置型の中でも比較的自由なのか、自由ならどの程度なのか、全体的にはどうなっているのかという問題が起こる。本稿はこれに対し、コーパスでの使用例数から接近するものである。

本稿の著作権は著者が保持し，クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します．
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

2. アラビア語エジプト方言の疑問詞位置について

言語の疑問詞位置には次の 4 つの型があると、角田(1990)は整理している。

・文頭に起こる型　　（本稿では「文頭移動」と呼ぶ）
・文末に起こる型　　（本稿では「後方移動」と呼ぶ）
・平叙文の場合と同じ位置に起こる型　（本稿では「元位置」と呼ぶ）
・特別の位置に（例えば動詞の直前に）起こる型

アラビア語エジプト方言は「元位置」型（Wh-in-situ）であることは次の引用にあるように古くから指摘されている。

「この小詞（=疑問詞：筆者註）を含む以下の各文の、強調のない典型的な語順は英語のものとは逆の語順である」（Mitchell 1962: 116, l.3 学習書）　The typical unemphatic order of the following sentences containing these particles is an inverted one in relation to English.

「疑問詞はふつう、質問となる成分が元々占めていた位置に置かれる。」（Ernest et. al 1979: 223 文法書）The question word usually occupies the slot previously occupied by the questioned constituent.

「疑問詞を文頭に置かず、文中のもとの位置にとどめる」（Versteegh 2001: 106, l.41; 2014: 143, l.36; 訳 2015: 217）there is no fronting of interrogative words, which remain at their structural position in the sentence,..

ところが同時に、疑問詞が文頭移動する場合があることも指摘されている。これらは強調、主題化などとして説明されている。

「疑問詞を文頭に置くと、‥文をしばしば強調にする」（Mitchell 1962: 116, l.32）The placing of the interrogative particle at the head,.. often gives an emphatic turn to the sentence.

「どんな言語でも、このような強調、際立て、主題化などの談話現象にはいろいろな選択肢が存在する。」（Versteegh 2001: 107, l.2; Versteegh 2014: 144, l. 10; 訳 2015: 218）Such alternatives exists in all spoken languages as discourse phenomena that have to do with emphasis, highlighting, topicalisation and so on.

また西尾（1990）は次のように、エジプト方言の場合は疑問詞が文頭にくる疑問文は、分裂文であると指摘している。引用中の「/illi/ というものが必ず入る」とは、後述の分裂文であることを指している。

「(13)は、/’eh/（何）が前に出てきています。これは英語の疑問文にあたるような表現です。‥関係詞と同じ形の /illi/ というものが必ず入る。(13) ’ēh illi ’Aḥmad ’arā-h ［Wh (=0)+ R + S + Vp］（アハマドが読んだのは何か？：筆者訳））（西尾 1990: 8, l.17）

西尾はさらに、エジプト方言ではフォーカスを文頭に置くために分裂文が発達し（西尾 1990: 7, l.4）、疑問詞が文頭にくる疑問文はこの分裂文であると指摘している。

これらを踏まえて疑問詞位置の傾向を定量的に観察したのが髙橋（2005）である。エジプト方言教材をコーパスとし、動詞文と非動詞文（動詞を含む文と含まない文）で分けて観察し、次の結果を得ている。

・動詞文：「疑問文における what, who の位置は EA（エジプトアラビア語）では平叙文の主語と目的語の位置と変わらない（ibid: 29, l.32）。」つまり、元位置（wh-in-situ）である。またこの動詞文には、存在詞を含む文も含む。存在詞については後述。
・非動詞文：「e:h（何）は統計によると、前置が圧倒的に多い」が、ネイティブへのアンケートでは、後方を使う、前後の両方を使うという回答もある（ibid: 32 l.7）。

以上のように、アラビア語エジプト方言の疑問詞位置は、おおかた元位置（wh-in-situ）と言えそうであ

るが、「強調」のために文頭に出ることもあるとも言われ、またコピュラ文(非動詞文)では文頭も元位置もあり、いまだ結論に至っていないのが現状である。

そこで本稿では、アラビア語エジプト方言の疑問詞位置がどのようになっているのかを、映画シナリオコーパスから集めた疑問文を観察し、構文と疑問詞の文法成分(主語、目的語、副詞)により傾向があることを明らかにする。

3. 疑問詞位置調査

3. 1. 調査資料

調査資料(コーパス)としてエジプト方言による、次の映画シナリオ 2 編から、2 語以上から成る疑問文を抽出し、疑問詞の位置を観察した。調査結果の詳細は本稿末尾の付表に示した。

『テロリズムとケバブ』（il-ʔirhaːb w il-kabaːb）1992 年、約 110 分

『ハッサンとマルコス』（ħassan wi morʔoṣ）2008 年、約 100 分

3. 2. 構文・疑問詞の文成分

疑問文を次の 4 種の構文と、それぞれの構文内での疑問詞の文成分(副詞、主語、目的語、補語)で分類し、疑問詞位置を観察する。

1. 動詞文（主語、目的語、副詞）
2. コピュラ文（主語、補語）
3. 存在文（主語）
4. 分裂文（元の動詞文の主語、元の動詞文の目的語）

4. 観察結果

コーパスから疑問文が 298 例得られた。

4. 1. 動詞文

ここで動詞文とは、主動詞のある文を呼ぶ。伝統アラビア語文法では動詞で始まる文を指し、［主語+動詞］の文は動詞文と呼ばないが、ここではそれらも動詞文とする。動詞文の語順はいくつかのバリエーションがあるが、基本的には次の例のように［主語＋動詞(句)＋目的語＋副詞(句)］である。

sijaːdt il-waziːr ʕaːjiz jikallim ak ʃaχsiːjan.「大臣はあなたと個人的に話したがっています。」

さん	大臣	～たい	話す	あなたに	個人的に
主語		動詞句		目的語	副詞

4. 1. 1. 動詞文の疑問詞主語

動詞文で疑問詞を主語とする例は 9 例で、そのうち miːn(誰)が 3 例、eː(何)5 例、kaːm(いくつ)1 例であった。

miːn(誰)3 例は次のとおりすべて動詞の前、すなわち元位置(SV)である。

(1) ja ṭara miːn ħa jaʕiːʃ? 「(そんな先の未来に)誰が生きているだろうか？」

だろうか	誰	(未来) 生きている
副詞	主語	動詞

(2) miːn fatan ʕalajja? 「誰が僕のことを通報したんだ？」

誰	通報した	私について
主語	動詞	副詞

(3) mi:n ʔa:l -ek ʔinn eħna hena:k ħanku:n fi ʔama:n ?「誰が君に、そこなら我々は安全と言ったか？」
誰 言った-君に ～と 我々 そこ だろう 安全だ
主語 動詞 引用節 .

一方、e:(何)5 例と ka:m(いくつ)1 例はすべて動詞の後である。すなわち、これまで指摘されてこなかった「**後方移動**」(VS)が確認された。

(4) ħa jiħṣil e: ? 「何が起こる(どうなる)か？」
(未来)起きる 何
動詞 主語

(5) gara e: ? 「何が起こった(どうした)か？」
起きた 何
動詞 主語

e:(何)の 3 例の動詞は(4)のような ħaṣal / jiħṣal(起こった / 起こる)が 3 例と、(5)のような gara(起こった)が 2 例である。いずれも「起こる」という動詞であることから、「**存現文**」である可能性も考えられる。「存現文」とは、新たな事物や事態の出現を表す文で、不定の主語が、動詞などの後に置かれる構文を呼ぶ中国語文法の用語である。後述の「存在文」でも存在する主語は、存在詞 fi:(ある)の直後にくる。しかし、「起こる」が主動詞の平叙文は、本コーパスでは(6)のように主語が動詞の前に置かれる例しかないので、存現文で主語が後方移動するという可能性は今のところ確認できない。

(6) di miʃ ħa tiħṣal ʔabadan ? 「それは決して起こらないか？」(tiħṣal は ħaṣal の現在形 3.F.SG)
これ ない (未来)起こる 決して
主語 動 詞 句 副詞

また、疑問詞主語 ka:m(いくつ)の例は 1 例であり、これも後方移動している。

(7) ħa jmu:t minnina: ka:m ? 「我々のうち何人が死ぬだろうか？」
死ぬだろう 我々から いくつ
動詞 副詞句 主語

以上、動詞文主語の疑問詞は、mi:n(誰)は元位置(動詞の前)であるが、e:(何)と ka:m(いくつ)は動詞の後に後方移動していた。e:(何)が後方移動したのは、動詞が「起こる」である存現文の可能性もあるが、ka:m(いくつ)は存現文とは言えないので、たとえ ħaṣal の例の後方移動が存現文であるからという可能性を残したとしても、後方移動の理由は他にもあるということである。現在のところは不明とせざるを得ない。

4.1.2. 動詞文の疑問詞目的語

平叙文は［主語 + 動詞 + 目的語］である。本コーパスで、疑問詞目的語は 75 例すべてが動詞の後、すなわち目的語の元位置(SVO)であった。このうち 72 例、すなわちほとんどが e:(何)である。

(8) enta ʔult e: bi ẓ-ẓabṭ ? 「君は正確には何を言ったか？」
君 言った 何 正確に
主語 動詞 目的語 副詞句

(9) huwwa d-di:n bi-jʔu:l e: fi l-mawḍu:ʕ da ?「神はそれについて何と言っているか？」
その (定)神 (進行)言う 何 それについて
主 語 動詞 目的語 副 詞 句

(10) enta toʔṣud e:？ 「君は何を意図しているか？(どういう意味か)」
君 意図する 何
主語 動詞 目的語

mi:n(誰)は 2 例であるが、そのうち 1 つは、midħat(人名ミドハト)と組み合わせた疑問詞句 midħat mi:n(何ミドハトか)になっている。また ka:m ʕulba(いくつの箱)も疑問詞句になっている。

(11) ir-ra:gel da joʔṣod mi:n bi s-sufaha？「この男は“無礼者”で誰のことを言ってるのか？」
(定)男 この 意図する 誰 (定)無礼者で
主 語 動詞 目的語 副 詞 句

(12) ʕa:jiz midħat mi:n bi ẓ-ẓabṭ？ 「君は正確には何(苗字)ミドハトを探しているのか？」
欲しい ミドハト 誰 正確に
動詞 目的語 副 詞 句
※ʕa:jiz はふつう擬似動詞とされるが、ここでは意味的に目的語を取るという統語的な理由で動詞として扱った。

(13) ʕa:jiz ka:m ʕulba？「何箱欲しいのか？」
欲しい いくつ 箱
動詞 目 的 語

(14) ħajaʕmilu e: jaʕni? 「つまり彼らが何をするというんだ？」
彼らがする 何 つまり
動 詞 目的語 副詞

4.1.3. 動詞文の疑問副詞(句)

平叙文で副詞(句)は、文頭に置かれることもあるが、基本的には動詞や目的語の後にくる。本コーパスで、疑問副詞 fe:n(どこ)、le:(なぜ)、izza:j(どのように)、emta(いつ)などは 69 例中 68 例、ほとんどが元位置((S)VX)であった。

(15) ha- nru:ħ fe:n？ 「私たちはどこに行くか？(行けばいいか)」
(未来)行く どこ
動詞句 副詞

(16) enta bi-tiʕmel keda le: ？ 「君はなぜこうしているのか？」
君 (進行)する こう なぜ
主語 動詞 副詞 副詞

(17) astirajjaħ izza:j？「私はどうやって休めるだろうか？(この状況では休めない)」
私が休む どう
動 詞 副詞

(18) enta ʔa:χer marra etna:wilt emta？「君は最後、いつ聖体拝領したか？(最後にしたのはいつか)」
君 最後の 回 取った いつ
君 副 詞 句 動 詞 副詞

副詞は平叙文でも文頭に置かれることもあるが、本コーパスで文頭に疑問詞がある例(XVSX)は 1 例あった。この疑問副詞 izza:j は、後方の元位置に残すこともできる。この場合は主語は動詞前に行く(SVXX)と予想されるが、他にデータがないのでここでは追究はしない。

(19) izza:j jiskun iʃ-ʃe:χ ħasan el-ʕaṭṭa:r ʕand-o？「どうして薬屋ハサン翁が彼の所に住んでいるのか？」
どう 住む (定)翁 ハサン (定)薬屋 彼の所に ※izza:j が「どういうわけで」の意味で使われている。
副詞 動詞 主 語 副 詞

以上、疑問副詞は基本的には元位置、すなわち後方にあり、平叙文のように文頭移動することもあるが少ないようである。

4.2. コピュラ文

コピュラ文の平叙文の語順は［主語 + 補語］(SC)であり、補語には名詞、形容詞、前置詞句などがくる。現在時制では主語と補語を並べるのみで、コピュラを使わないが、ここでは便宜的にコピュラ文と呼ぶ。過去や未来などの時制ではコピュラ動詞 ka:n の活用形が現れる。これは動詞であるが、ここではコピュラ文として一緒に扱う。また、le: keda?［なぜ・そうだ］「なぜそうなのか？」のような疑問副詞と副詞の文も主動詞がないのでここで扱う。本コーパスでコピュラ文の疑問文は 95 例あり、そのうち疑問詞主語は 3 例、疑問詞補語は 92 例である。

4.2.1. コピュラ文の疑問詞主語

疑問詞が主語であるコピュラ文は 3 例と少ない。いずれも mi:n(誰)であった。この 3 例はいずれも前位置、すなわち元位置(SC)である。

(20) mi:n hina:k？ 「誰がそこにいるのか？」
誰 そこ
主語 補語

(21) mi:n maʕa:ja ʕala l-χaṭṭ . 「誰が(電話)線上で私と一緒か(どなたですか)？」
誰 私と一緒 線の上
主語 補語 副詞句

(22) mi:n fi:ku ʁe:r it-ta:ni？「君たちの内の誰が、もう 1 人でないか？(どっちがどっちだ？)」
誰 君たちの中 以外 別の者
主 語 補 語
※双子の２人が区別つかないという意味。

4.2.2. コピュラ文の疑問詞補語

コピュラ文の疑問詞補語は 92 例あり、このうち元位置［主語 + 疑問詞補語］(SC)が 39 例、文頭移動［疑問詞補語 + 主語］(CS)が 53 例である。コピュラ文の疑問詞補語は、元位置と文頭移動がどちらもあるということがコーパスから確認できる。何によって決まっているかは不明であり、談話的な要因の可能性を指摘するに留まる。

元位置(SC)の例は次のものがあった。

(23) dija:nt-ak e:？「君の宗教は何か？」
宗教 -君の 何
主語 補語

(24) kullu-ku mi:n？「君たち全員は誰か？」
全員-君たち 誰
主語 補語

(25) ibn-ak fe:n？「そして君の息子はどこか？」
息子-君の どこ
主語 補語

文頭移動(CS)しているのは、次のような例があった。

(26) e: d- dawʃa di？「この騒ぎは何か？」
何 (定冠詞)騒ぎ この
補語 主 語

(27) e: is- ṣo:tᵉ da？「この音は何か？」
何 (定冠詞)音 この
補語 主 語

(28) mi:n do:l？「これらは誰か？」
誰 これら
補語 主語

(29) mi:n il- baʕbaʕ ？ 「不平屋は誰か？」
誰 (定冠詞) 不平屋
補語 主 語

(30) fe:n il- walad？「その子はどこか？」
どこ (定冠詞) 子
補語 主 語

コピュラ文の未来や過去には時制の助動詞 ka:n（である）の活用形を使うが、この ka:n と疑問詞を合わせてて疑問詞句と捉えればコピュラ文と見ることができる。(31)では、ha-jku:n fe:n とすることで fe:n（どこ）を未来の疑問詞句となり、疑問詞補語が文頭にきていると言える。これを動詞文の疑問副詞と見るならば、主語 il-makan da（その場所）が後方移動していることを説明しなくてはならない。

(31) ha- jku:n fe:n il- makan da？「その場所はどこになりそうか？」
(未来)-である どこ (定冠詞)-場所 その
補 語 主 語

次のような例は、必ずしもコピュラ文とはしにくいが、［疑問詞補語 + 主語］の構文と並行している。

(32) le: it- taʕbᵉ da？「その気苦労はなぜか？（遠慮なく気楽にどうぞ）」
なぜ (定冠詞)面倒 この
補語 主 語

(33) ʕala fe:n il- ʕazm badri keda ？ 「こんなに(朝)早くにどちらへ？」
～へ どこ (定冠詞) 意図 早く こんなに
副 詞 句 主 語 副 詞

以上、コピュラ文の疑問詞補語は、語順の頻度が文頭と後方の割合が同じくらいであり、また同じ文を文頭、元位置（後方）のどちらも実際に使われる。例えば「これは何か？」は、ネイティブへの確認によると(35)も使われるとのことであるが、実際には(34)が最も一般的で頻繁に聞かれる普通の語順である。

(34) e: da？「これは何ですか？」
何 これ
補語 主語

(35) da e:？「これは何ですか？」
これ 何
主語 補語

4. 3. 存在文の疑問詞主語

存在文とは、英語の「there (is)」や中国語の「有」に相当する存在詞 fi:（ある）などを用いた文である。(36)のように［存在詞 + 主語］の語順で、主語は不定であり、存在詞の直後に置かれる。ところで、存在文で、主語以外の成分が疑問詞（副詞）の例はコーパスにはなかった。

(36) fi: kita:b ʕala l-maktab .「机の上に本がある」
有る 本 机の上に
存在詞 主語 副詞句

存在文は 30 例あり、その疑問詞主語はすべて存在詞 fi:の後（fi:S）、すなわち元位置であった。ただし、

30 例すべてが、(37)のような fi: e:?「何があるのか？(どうした？)」である。これは非常に多用される「どうした？」の慣用表現である。

(37) fi: e: ja mirjam？ 「何があるのか？(どうした？)、ミリヤムよ」
ある 何 ～よ ミリヤム
存在詞 主語

4. 4. 分裂文

エジプト方言の分裂文(平叙文)は［定の名詞 + 定の節］の形式をしている。この文の成分の意味的な関係は、倒置したコピュラ文［補語 + 主語］(CS)である。例えば次の分裂平叙文は、前部要素の ana(私)が補語「私だ」であり、後部の「それを 1 キロ 150 銭で買ったのは」が主語である。

ana lli ʃarja: ha l-kilo bi 150 ʔirʃ.「私よ、それを 1 キロ 150 銭で買ったのは。」
私 (節定冠詞) 買った それ 1 キロ 150 銭で
補語 主 語

分裂文の補語(前部要素)を疑問詞にしたのが分裂疑問文である。つまり、西尾(2009: 16, l.11)が指摘するように、疑問文を分裂文にすることで疑問詞を「焦点化による移動」をしているのである。したがって当然、本コーパスでも mi:n(誰)が 4 例、e:(何)が 16 例の計 20 例の疑問詞は全て文頭移動である。そこでこの節では、疑問詞の焦点化について次の 2 点を確認する。

・平叙文で、もともと文頭にある主語の疑問詞は、mi:n(誰)は元位置で疑問文になるが、e:(何)の場合は元位置(文頭)にすると焦点化され、分裂疑問文にする必要があること
・疑問詞目的語を焦点化して文頭移動するには分裂疑問文にすること

4. 4. 1. 動詞文の疑問詞主語の焦点化

動詞文主語が疑問詞である分裂疑問文は、mi:n(誰)が 3 例、e:(何)が 14 例、である。

次の例は、mi:n が fatan(不平を言った)の主語である(C[S])。

(38) mi:n illi fatan ʕalajja？「誰だ、私について不平を言ったのは？」
誰 (節定冠詞) 不平を言った 私について
補語 主 語

この例は、その直前に発せられた、分裂文でない疑問文(39)(SVX)を分裂文にした文である。両者は、見かけ上は語順が同じであるが、日本語訳から感じられるように、分裂文(38)のほうが mi:n(誰)に焦点があたっている。

(39) mi:n fatan ʕalejja？ 「誰が私について不平を言ったのか？」
誰 不平を言った 私について
主語 動詞 副詞句

e:(何)は 14 例あったが、このうち 7 例が動詞が ħaṣal / jiħṣal(起こった / 起こる)である。

(40) e: illi ha-jiħṣal baʕdᵉ keda？「何だ、このあと起きることは？」
何 (節定冠詞) (進)-起きる この
補語 主 語

上で見た(4) ħa jiħṣil e: ?のように「起こる」の主語疑問詞は必ず後方移動するので、「起こる」の場合は主語であっても疑問詞を文頭に置くためには分裂文にしなければならないようである。

4.4.2. 動詞文の疑問詞目的語の焦点化

分裂疑問文のうち、疑問詞が目的語であるのは e:（何）の 2 例である。目的語の場合、節の中に代名詞が現れ、節内での疑問詞の役割を表す。(41)と(42)では動詞に接尾された代名詞 -u（それ：3 人称単数男性）が疑問詞 e:を受けている。

(41) e: illi enta bteʕmel -u da？「何だ、その君がしていることは？」
何 （節定冠詞）君 している それを その
補語 主 語

(42) e: illi enta ʕamalt -u fi n-na:di maʕ el-wula:d lelt imba:reħ?
何 （節定冠詞）君 した それを クラブで 子どもたちと 昨日の夕
補語 主 語
「何だ、昨日の夕にクラブで子どもたちとやったことは？」

分裂文でない疑問文では、このように疑問詞目的語を文頭移動した例はないので、(43)のように疑問詞目的語を焦点化するためには、単純に文頭移動することはできず、分裂文にすることが必要ということである。

(43) *e: bteʕmel？「*何だ、君がしているのは？」
何 している
目的語 動 詞

5. まとめと展望

5.1. エジプト方言の疑問詞位置

本稿では、基本的には元位置型（Wh-in-situ）であると認識されているアラビア語エジプト方言の疑問詞語順について、次のことを明らかにした。

(a) 本コーパスの疑問文 298 例のうち 217 例が元位置であることからも、エジプト方言が基本的には**元位置型**であることが改めて確認できた。

(b) そして、従来は“強調”などで疑問詞が文頭に出るとされていたが、あらゆる疑問詞があらゆる構文で文頭に出るわけではなく、分裂疑問文を除くと、文頭にあるのは 2 つ、①動詞文やコピュラ文主語の mi:n「誰」（主語の元位置）と、②コピュラ文補語（文頭移動）であった。mi:n 以外の動詞文主語 e:（何）や ka:m（いくつ）は動詞前ではなく(c)の後方移動である。mi:n が文頭に残るのは有生性と関係があるかも知れないことも指摘した。またコピュラ文補語は、文頭移動と元位置の両方がある。

(c) また新たに、疑問詞の**後方移動**があった。本コーパスでは動詞「起こる」の主語 e:（何）と ka:m（いくつ）なので存現文である可能性もあるが、平叙文では主語が動詞より先なので存現文とは確認できない。

(d) 上の(b)や(c)の疑問詞を文頭に持って行こうとするならば、単純に移動することはできず、分裂文にする必要があることも確認した。

5.2. 疑問詞位置の対照研究にむけて

「単一言語で普通の文脈において WH 移動と元位置 WH を両方用いることはできない。（たとえば、日本語は元位置、英語は移動のみ）」（Otsuka 2015: 1）という観察があるが、アラビア語エジプト方言では、動詞文の疑問詞主語は元位置（mi:n「誰」）と後方移動（e:「何」と ka:m「いくつ」）があり、またコピュラ文補語は文頭移動と元位置の両方があるので、その予想に反する例と言える。

疑問詞位置が構文によって異なるということは、動詞文・存在文とコピュラ文では、情報構造的に違いがある可能性を示している。マレー･インドネシア語も、疑問詞元位置型と言われるが、動詞文とコピュラ文で位置の特徴が異なるようである。また、同じく SVO 語順である中国語やタイ語は完全に元位置型であるが、これは、同じコピュラ文であっても、中国語・タイ語にはコピュラがあり、アラビア語やマレー・インドネシア語にはコピュラがないという違いが関係しているかも知れない。

参考文献

欧文

Ernest T. Abdel-Massih, Zaki N. Abdel-Malek, El-Said M. Badawi. 2009. A Reference Grammar of Egyptian Arabic, Georgetown U.P.

Mitchel, Terence F. 1962. Colloquial Arabic: The Living Language of Egypt, Hodder and Stoughton Ltd.

Versteegh, Kees. 1997, 2001. The Arabic Language. Edinburgh U.P.

Versteegh, Kees. 2014. The Arabic Language, 2nd ed. Edinburgh U.P.（『アラビア語の世界－歴史と現在』長渡陽一訳, 2015 年, 三省堂）

和文

Otsuka, Yuko. 2015. 'The Typology of WH-words: An Austronesian Perspective' 「日本語疑問文の通時的・対照言語学的研究」研究発表会ハンドアウト（http://j-int.info/wp-jint/wp-content/uploads/2016/01/9_大塚先生最終稿.pdf）

角田太作. 1990. 「ワルング語の疑問詞の位置」日本言語学会　第 100 回大会研究発表要旨

高橋友佳理. 2005. 『アラビア語諸方言における疑問文の語順について』学士論文, 東京外国語大学.

西尾哲夫. 1990. 「アラビア語エジプト方言の疑問詞の語順について　－コプト語影響説の再検討－」『イスラムの都市性・研究報告（研究報告編・第 94 号）』pp. 1-29.

西尾哲夫. 2009. 「エジプト・アラビア語の Wh 疑問文の語順と語順変化－コプト語影響説の再検討－」『国立民族学博物館研究報告』34 (1).

本研究は、JSPS 科研費 JP16K02877 の助成を受けたものです。

また査読者の先生方からは、非常に有意義なご指摘やご意見をいただき感謝いたします。

6. 付表　［構文と疑問詞位置の調査結果］

コーパス：エジプト方言映画『テロリズムとケバブ』『ハッサンとマルコス』

下線が疑問詞、C=補語、X=副詞句、*fi*:=存在詞、[ ]=節、[S]=主語である名詞節。数字下線は各欄の合計

		元位置		文頭移動		後方移動		合計
動詞文（主語）	mi:n「誰」	SV（動詞前）	3					3
	e:「何」					VS	5	5
	ka:m「いくつ」					VS	1	1
			計 3				計 6	計 9
動詞文(目的語)	e:「何」	(S)VO（動詞後）	72					72
	mi:n「誰」	VO	2					2
	ka:m「いくつ」	VO	1					1
			計 75					計 75
動詞文(副詞)	e:「何」	VX（文の後方）	3					3
	前置詞+mi:n「誰」	VX	1					1
	fe:n「どこ」	VX,CX,VOX	14					14
	add e:「どの位」	VXX	1					1
	le:「なぜ」	VOX, SCX	32					32
	izza:j「どのように」	SVOX, CX...	16	XVS	1			17
	ajj+N「どの」	VX	1					1
		VX	1					1
			計 68		計 1			計 69
コピュラ文（主語）	mi:n「誰」	SC（補語の前）	3					3
			計 3					計 3
コピュラ文(補語)	e:「何」	**SC**（主語の後）	15	CS	32			47
	mi:n「誰」	**SC**	8	CS	5			13
	fe:n「どこ」	SC	12	CS	14			26
	ka:m「いくつ」	SC	1					1
	bika:m「いくら」	SC	1					1
	emta「いつ」		1					1
	le:「なぜ」	SC	1	CS	2			3
			計 39		計 53			計 92
存在文（主語）	e:「何」	fi:S（存在詞後）	28					28
	ka:m「いくつ」	fi:S	2					2
			計 30					計 30
分裂文　（補語）	e:「何」			C[S]	16			16
	mi:n「誰」			C[S]	4			4
					計 20			計 20
合計			217		74		6	298

執筆者連絡先：nagatoyouichi@gmail.com

原稿受理：2022 年 12 月 10 日